

# 共に生きる

東日本大震災現地支援ニュース No26

2014年10月29日 大会執事活動委員会

## \*のぞみセンター活動報告\*

2014年10月

のぞみセンタースタッフ 大野 雅良

### 新地町「雁小屋仮設」での活動

9月19日(金)に集会室でディンプル・アートというアクリル板に絵を描く大人の塗り絵を行いました。講師の方をお招きして指導をして頂きました。今回はスタッフも含めて6名の方が参加され、塗り絵の要領でアクリル板に色着けしていき、絵具が乾くとスタンドグラスの様な風合いが出て、とてもきれいな絵になりました。一仕事済んだ後はお茶会になり、あるご婦人のお話をお聴きする機会を得ました。その方は浪江町出身の方で、原発事故により自宅に住めなくなり、この雁小屋仮設に来るまでに4回も引っ越しを余儀なくされ、福島県内の仮設住宅を転々としている、と言われました。原発事故で強制的に移住をさせられた住民には自分の町が運営する仮設住宅はありません。全て他の町、市が運営する仮設に間借り状態で入居されています。



「いつになったら落ち着いた生活が出来るのやら・・・」と

つぶやかれるご婦人に、お祈りしています、と言う以外に返す言葉が見つかりませんでした。10月24日(金)今日は秋晴れの良い天気にも恵まれましたが、生憎、集会所での押し花教室のイベントは、小学校の祖父母の学級参観日と重なってしまい、参加者は1名だけの寂しいものとなってしまいました。講師は、仙台教会所属仙台栄光伝道所の中林引退長老の奥様チヨ姉が指導して下さいました。チヨ姉手作りの押し花を使い、スタッフ7名も入って時間が経つのも忘れて熱中しました。その後、お茶会に移り、交わりの時を持ちました。参加者が少なかった為にお一人の方を囲んでゆっくりと落ち着いた雰囲気の中でお話が出来たのは、とても幸いな事でした。

### \* 祈禱課題 \*

- 雁小屋(がごや)仮設の住民の方々に主にある平安と希望が注がれるように
- 子どもたちの心の動きや痛みに大人が目を留め、共に成長していけるように
- 多くの収穫を約束された山元町に、福音を伝える働き手が与えられるように

先日のぞみセンターで行われたイベントで一番嬉しかったのが早朝から包丁まな板持参で、三角巾姿のご婦人たちが地域から集まってくださったこと。

「いづもしてもらってばかりいて、ホント感謝してっから、おらたちも何とか役に立ちでえな〜って毎日思ってるの。だから今日はこういう機会頂けて嬉しがっだあ〜！」と手を握ってくださる方の笑顔が有り難く、目頭が熱くなりました。楽しく皆でおしゃべりをしながら手先は職人並みの手際の良さであっという間に大鍋三つ分の美味しい芋煮が出来上がり、カナダ風の感謝祭料理と宮城定番の芋煮を囲んで喜び溢れるインターナショナルな交わりが与えられました。



## \*陸前高田 10月活動報告\*

チーム陸前高田 佐々木金光

第53回 陸前高田支援活動は一関の温泉に一泊して、「紅葉狩りツアー」となりました。日時は2014年9月29・30日、場所は栗駒山麓です。参加者は4つの仮設から計28名、チームからは8名の合計36名でした。

### 9月29日・一日目：巖美溪經由矢びつ温泉・瑞泉閣

私たちチームは迎えのバスに乗り換え、各仮設からの参加者と合流し、瑞泉閣へと向かいました。向かうバスの左手には栗駒山を源流とする磐井川の中流に岩手県屈指の名所・巖美溪が一関市内を流れます。途中下車し、遊歩道を散歩し巖美溪名物・空飛ぶ団子を食べました。

#### 矢びつ温泉 瑞泉閣



17時温泉到着、入浴、食事、宴会です。佐々木和雄長老の司会、李根培宣教師の挨拶、食前の祈りと続きます。諏訪仮設の菅野啓佑さんの乾杯の音頭で食事・宴会が始まりました。菅野啓佑さんは黄色いハンカチで、話題になった方です。乾杯の音頭時に「電気カーペット以来、この3年間、回を重ねて訪問していただき、今日も私たちをこのようにもてなしてくださいました。『乾杯 !!』」。会場全員声高らかに「乾杯!!」。

### 9月30日・二日目：ハイルザーム栗駒・いわかがみ平・紅葉観光

午前9時、瑞泉閣を出発。二日目の休憩所・ハイルザーム栗駒に到着。入浴・休憩・昼食・カラオケ・自由時間の後、14時ハイルザームのバスで いわかがみ平・紅葉観光です。

栗駒山：東北地方のほぼ中央に位置し、岩手県、秋田県、宮城県の3県にまたがる標高1627mの山。栗駒山麓は「紅葉日本一」のひとつに数えられ、ブナ、ナナカマド等が全山を覆い、紅、黄に染まり、雄大な自然美は登山者の心を誘います。仮設住宅の4畳半2部屋の狭い空間での生活から解放され、眼下に広がる山々です。「飛行機から見下ろすようだね」と左右の景色に感嘆の声。---16時、陸前高田到着、解散。仮設の方々が雄大な山々の中に身を置き心癒され、大自然をお造りになった創造主を覚えて頂ければ、と願いました。

後日、陸前高田から2通のお便りが栄光教会に届きました。

■「紅葉の栗駒山麓紅葉狩り、一泊旅行には大変楽しく過ごさせていただき、ありがとうございました。感動の余韻が日を重ねると、深みを増してまいります。---菅原正治。」

■黄色いハンカチで話題となった菅野啓佑様からも「女性会の皆様へ」と題して

「先日は素晴らしい観光、誠に有難う御座居ます。皆様のバスを見送りました後、仮設の駐車場を歩きながら仮設の皆さんの顔がにこにこ、でした。良かった良かったとの声でした。教会の女子会の皆様の心の素晴らしさを毎回知る事ばかりです。感謝・感謝です。お体を大切に、皆様の御主人様に末長く尽し尽されますよう祈っております。」



## \* 東仙台教会ボランティアセンター活動報告 \*

東仙台教会牧師 立石 彰

主イエス・キリストの御名を讃美いたします。被災された方々のため、支援の働きに関わる私たちのために、祈りに覚えてくださっている全国の兄弟姉妹方に心から感謝いたします。

### 1. 山中雄一郎協力牧師を通して



2014年6月から山中雄一郎先生を協力牧師としてお迎えし、早くも5ヶ月が過ぎようとしています。交代で説教奉仕を担当するようになり、山中先生はヨハネによる福音書から連続講解説教を始めてくださいました。先生が語られる御言葉の説き明かしを通して、私自身はもちろんのこと、東仙台教会会員一同が主イエスの慰めと励ましを豊かに受けています。震災直後の景色と被災された方々から話を聴き続けたことによって神様に対する“あきらめ”と疑いに支配されていた心が、御言葉の説教を聴き続けることによって少しずつ整えられていることを感じています。山中先生を送り出してくださった板宿教会と西部中会、そして第二期募金に献金を献げてくださった全教会、兄弟姉妹の方々に改めて心からの感謝をお伝えしたいと思います。2年という限られた期間ではありますが、山中先生から多くのことを学び、伝道者としての成長を願う者です。

7月中旬の様子

### 2. サクラハウスのリフォームについて

当初は11月中に完成する予定でしたが、工期は延長しています。サクラハウスの建物は地震と津波のダメージを受けており、工事前には想定していなかった補強や修繕作業が必要になりました。また二階の床下まで津波に浸かっていたために、水道・電気の配管を入れ替える箇所もありました。さらに、一部を「ラーメン屋」の厨房として作り直す工事（費用は熊田が負担）にも予想していた以上の時間がかかっています。年が明けて1月末頃の完成を目指しています。思いがけず与えられた“休憩期間”として、少しのんびり過ごせています。



この工事は、震災後にボランティアとして家族で埼玉から仙台に引っ越してきてくださった宿谷匠・千穂夫妻の宿谷工務店が担ってくださっています。宿谷千穂姉は吉岡契典教師の妹で、私も東部中会の高校生会の時代から交わりが与えられていました。本当に多くの方々が多様な形で東仙台教会ボランティアセンターの働きに献身的に関わってくださっていることを感謝いたします。工事のために続けてお祈りください。

### 3. ラーメン屋のオープンに向けて



ミッション協議会からの経済支援が終了する2016年以降も、これまで関わってきた野蒜・新東名の方々との交わりを継続させるため、スタッフの熊田真介がサクラハウスで週末だけのラーメン屋をオープンさせることになりました。お店の名前は、迷いに迷った結果、熊田が8年間務めたラーメン屋の名前をそのまま受け継ぎ「楓」としました。

年に数回開催してきた食事会でラーメンを提供するたびに言われる「真ちゃん、ラーメン屋始めてよ!」という地域の方々の声に応え、自給自足でもこの地に残る決意をしてくれた熊田真介兄に、心から感謝をしています。地域の方々に喜ばれる場所となりますようお祈り下さい。

## 名古屋岩の上教会ディアコニア支援室より

名古屋岩の上教会牧師 相馬伸郎

### 1) 第15回被災地ディアコニアの計画

日 程：12月7日（主日午後1時より出発）～9日（火）

場 所：相馬市、南相馬市にある3か所以上の仮設住宅（調整中）

内 容：集会室でのお茶っこ、傾聴、万華鏡づくり、子どもとの遊び、包丁研ぎ、  
飲料水・カレンダー個別配布 他

祈禱課題：困難になってきた経済状況のために、これまで控えてきた中部中会やさらに広い有志の皆さまにも献金支援のアップールを検討中です。

### 2) 何故、フクシマなの？

昨年より福島県のいわゆる相双地域（福島第一原発を含む相馬市、双葉町他の地域）の被災者支援を始めています。それまでは、宮城県亘理町（亘理伝道所近隣にある亘理旧館仮設）、山元町（坂元中跡、ナガワ工業団地）の仮設住宅入居者への支援に特化していました。小さな伝道所（14年3月まで）が担いえる継続的な奉仕の実力に鑑みての事でした。そして今回は初めて、福島に限定した働きを予定しています。一つの理由は、状況の変化と何よりすでに「のぞみセンター」が山元町で善き働きを担っておられるからです。しかしそれ以上に、神からの問いを覚えさせられているからです。

福島県、それは既に被爆地ヒロシマ、ナガサキそしてフクシマとして世界に知られています。このフクシマの現実、世界を震撼させ続けている現実（のはず）です。毎日、海洋汚染、空気汚染は続いています。放射能禍の被災地に、多くの市民、小さな子どもたちも住んでいます。3：11の日の津波と地震で破壊された町並みが、冷凍保存でもされているかのように広がっています。（あの戦争の再現・・・？新しい焦土・・・？第二の敗戦は進行中です。）ところが、この恐るべき現実を無視し、さらに被災者の声を圧する力が働いています。この国は、「核発電」の悲惨をひた隠し、いわんや、その罪責と向き合おうともしていません。

「預言者としての教会」は、この国と世界の経済構造（差別・不公平・不正義）を告発すべきです。しかし同時に、「ディアコニアの教会」は、彼らと共に生きる道を「さぐる」べきではないでしょうか。そして、彼らの声にならない声を神に届け、共に痛み、悲しみ、「神さまなんとかしてください！」と祈ることが求められているのではないのでしょうか。それを、日本の教会の責任、日本キリスト改革派教会の使命と言うのは、言いすぎでしょうか。

**尊いお祈りとご支援に心からの感謝をもって、Soli Deo Gloria！**

#### <今月の御言葉>

太田伝道所 二宮創

人生には思いがけない困難があります。耐えがたい苦難もあります。何の理由もなく災難に遭い、何の落ち度もない人が生活を脅かされることが起こります。災難の理由は知らされず、苦難の意味も示されず、困難ばかりが募ってゆく。そのような非常事態が日常的となった3・11後の時代を、私たちは生きています。私たちを言語喪失に陥らせた大震災、その前後から、太田伝道所では、毎月1回のペースでヨブ記の連続講解説教がなされました。「無垢な正しい人ヨブ」の受難と回復に、自分自身と家族友人を重ねながら、一緒に黙想してきました3年半は、未曾有の出来事が相次ぐ中、それでも語りうる言葉、いまこそ語るべき言葉を、一つひとつ拾い上げてゆく歩みとなりました。災害で息子・娘を失い、略奪で財産を奪われ、疫病で命までもが危うい受難の僕が、無垢な正しい人であり続けることは、まさに至難の業です。しかし天上の御前会議で、サタンの訴えに抗して、御自分の僕に太鼓判を押し、その行く末をすべて請け負われた「神の義」が、沈黙において貫かれ、御言葉によって証しされます。3・11後の時代が第二の戦後に譬えられる今、日本の転落と我らの苦難をヨブに重ねることができます。ヨブの友であり続けること、そしてヨブに似た人々の友であり続けること、それがキリストのしもべである私たちのディアコニアなのだと思っています。

「ヨブの娘たちのように美しい娘は國中どこにもいなかった。

彼女らもその兄弟とともに父の財産の分け前を受けた。」

ヨブ記42章15節